

特集 2

学ぶ×働く移民女性たち

報告 1 無条件で支えてくれる人々とともに

高山ユキ

ベトナム出身。1982年にボートピープルとして来日。現在はカトリック教会や労組の移民支援の相談・通訳スタッフとして活躍。

ベトナムをボートで脱出

皆様こんにちは。高山ユキです。ベトナム系日本国籍で1982年に日本に来ました。ベトナム戦争が終わったのが1975年です。私はカトリック信者だったので、自由に生活できず、教会に行けないことがたびたびありました。修道院も解散させられました。

1954年に北から南ベトナムに来た私の父親は、「もうこの国は共産主義でダメだから、とにかく自由を求めて外国に逃げなさい。将来何があるかわからないので外国に行きなさい」と、ベトナムを離れるように言いました。実感ではそんなに困っていなかったのですが、将来のために、自分の信仰も自由に実践できるように、自分の未来のために、もし結婚して子どもができたなら、その子どもも自由に信仰できるようにと、ベトナムを離れました。

ベトナムでは、家は農家で、畑をたくさん持っていたのですが、1975年に戦争が終わった途端に共産主義政権に没収されました。お金も、新しい通貨に交換させられました。世帯ごとに交換できる額に制限があったし、以前の通貨は外国通貨に交換できませんでした。交換できなかったお金は紙切れになってしまうので、ものすごく貧しくなりました。国自体もどんどん貧しくなっていました。平等と言いながら貧しくなる。どんなに貧しくても我慢できたのですが、教会に行けず、自由にお祈りができないし、集まることができないほうが、耐えられませんでした。

それで、家族のうち、兄と、兄の妻と、私と、弟と、甥っ子の5人でちっちゃいボートに乗ってベトナムを出発しました。とても小さい舟で、はじめは50数名で行くつもりだったのですが、どんどん増えて、最終的に数えたら98名でした。妊婦さんがのちに出産した子どもを含めると103名になります。

ちょうど9月の台風が激しい時期で、出発して3日後にもう機械が壊れて、波任せでした。カトリック信者多かったので毎日祈っていました。14日間海の上において、30数隻の船が近くを通りましたが救ってくれませんでした。こんな人数を救ったら、後の責任も重いので、見捨てたのかもしれないと、今になると思います。最終的に、イタリアの石油タンカーが救ってくれました。

日本に到着

なぜ日本に来たのかというと、1981年に日本政府が難民条約に加入していたので、タンカーが日本に寄りました。千葉県の高松に到着し、そのまま98名がバス3台か4台で大村難民一時レセプションセンターに直行しました。

そのあと日本で難民と認められるまで、いろいろなところを転々として、最終的に姫路定住促進センターで日本語と職業教育を受けました。日本語の勉強は3ヶ月だったのですが、その間に、いろいろなことを経験させてもらいました。姫路城に行ったり、電話する練習をしたりしました。その頃はまだ携帯電話はなくて、公衆電話から先生に電話をして、かけ方を教えていただきました。日本の生活も一からすべて教えていただきました。その後、浜松の会社に5人きょうだい全員を雇ってもらいました。ホンダの部品組み立てやメッキなどの仕事で、住み込みで3年間働きました。日曜日に時間があると近くの教会に通って、今の旦那と出会って、その3年後に結婚して東京に来ました。さらに旦那の仕事の移動で川越に引っ越しました。

川越に行く前に日本国籍を取らないとまずいということになりました。きっかけは、アパートを探していたときに、「名前、外国人だね。貸せないね」って言われたのです。何か所も探したのですが、外国人でもいいけれど保証人は日本人じゃないとダメと言われました。社長に頼んだところ、社長には断られたけれど、従業員のひとりが「いいよ、僕が保証してあげるから借りな」って。その時、ああ、やっぱり外国人の名前だと生活しにくいのかなと思いました。私はベトナムから逃げた人間だから、もう戻れません。戻ったら逮捕される。それで決心して日本国籍を取りました。

東京で借りた家はお風呂がなかったのですが、妊娠して、お腹が大きくなったので、お風呂がないとちょっと不便で、どこかに引っ越さないともまずいね、ということになりました。外国人なので銭湯にあまり慣れてない上に、お腹がでてきていたので。それで、川越に知り合いがいて、「仕事をすれば、ハローワークで雇用促進住宅に入れるよ」と教えてもらって、入居しました。自分の家で、自分のお風呂を味わって、それが一番幸せでした。

雇用促進住宅に、十数年住みました。安かったんですね。今は子どもたちも大きくなって、雇用促進住宅は2Kで、狭かったのが、近くに安い一軒家を買いました。子どもは3人も授かって、みんなあまり頭良くないけど大きくなりました。社会人になりました。

日本語と仕事、育児について

日本語は姫路で3ヶ月間しか勉強しなかったのですが、とても恵まれていて、政府や教会からいろいろサポートをしてもらいました。独身の時は、夜間中学の日本語学校に1年間通わせてもらいました。日本で生活するからには日本語を勉強しないといけなかったのですが、日本語は初めてで、とても難しかったです。漢字とカタカナ、ひらがな、三種類も勉強しないといけない。かなり難しかったです。できるようになると楽しいですね。

自分にもそうだけれど、人にも役立てるようになります。

結婚して、子どもが小さい間は働けませんでした。旦那が昼間働いて戻ってきた後に、私は子どもを寝かして、旦那も一緒に寝て、私は夜、働きに行くんですね。近くのレストランは夜9時から朝10時までやっていて、週4日間働きました。下の子が2歳の時でした。昼間はやっぱり眠かったですね、あまり眠れなかったから。家事をしながら、子どもの送り迎えをして、幼稚園と小学校に通わせなくてはならないので、昼間は家にいないといけません。2歳の子はまだ幼稚園にも保育園にも行けなくて、面倒を見る人もいないので、自分で責任を持って育てなくてはならず、夫と昼夜交代で働きました。仕事は、日本語ができるようになっていたので、自分で電話して、「雇ってください」と応募して、「面接きな」と言われると、「あ、日本語通じたんだ」と。面接してもらって「じゃあ、とります」と雇ってくれたのはよかったのですが、仕事では、仲間はずれにされたこともあります。日本語が読めないと仕事の仲間に入れてくれないんですよ。全員日本人で、いい人もたくさんいるのですが、たまに意地悪い方がいるんですよ。すみません。

私は大きな和食レストランで働いていて、モニターを見ながらオーダーの入った料理を作るのですが、モニターを読めないと、そのラインに入れてくれないんですよ。読めないと洗浄に回されてしまう。悔しいなと思って、やっぱり勉強しないといけないと思って、勉強しました。仕事でも、そのあとに外国人が入ってきて、通訳も頼まれました。人手不足になると外国人も入れないといけないのですが、外国人は字が読めないので洗浄に回されます。でも洗浄ばかりやらせると、すぐ辞めてしまうんですよ。なんとかラインに入れてあげて、交代でやらないとかわいそうだなって思って、店長に頼んで、ラインに入れてもらいました。でも、蕎麦、天ぷら、スープ、寿司は、モニターを見ながら料理を作らないとできないので、ラインに外国人は入れてくれないのです。

洗浄はもう、朝から夜まで皿が山ほどあって、洗浄機はあるんだけど一人にやらせるとかなりしんどいです。それで、すぐに辞められてしまいます。長く続かないです。そうしたなかで、「こういう風にやらないとみんな辞めてしまいますよ」と自分の意見を出せようになると、「役立てたな」と思えます。ベトナム人は Facebook のメッセージをよく使うのですが、無料 Wifi につないで、仕事で言われたことなどを、メッセージで写真を送って、見せて相談します。全然わからないと相談されたら、それも自分が翻訳してあげないとイケなくて、通訳を長くやってきたのにできなかったら恥ずかしいので、また意地はって勉強をしました。

支援活動

仕事では、専門用語は使わないのですが、ベトナム人の支援活動で必要になりました。在留資格を申請して、却下されて逮捕されたベトナム人から、弁護士を探してほしいと頼まれたことがありました。教会の方に聞いたら、市役所に電話するよういわれて、電話

をかけてみたんですね。それで川越法律事務所を紹介してくれました。5年前でした。対応してくれた弁護士にお金がないことを伝えたところ、法テラスのことを教えてくれて、その弁護士に会うために相談してきたベトナム人に同行しました。そうしたら弁護士に通訳を頼まれて、「あ、これちょっと無理だ」となりました。旦那はできるんだけど、専門の言葉になると恥ずかしいくらいできない。これはまずいなと思って、帰ってまた勉強しないといけない。逆に、法テラスから通訳料がでるんですよね。それを支払われるのは、もらう方が恥ずかしい。あまりできないのに支払われている。それで、頑張っって勉強しようって。

同じ年に技能実習生の通訳も頼まれるようになりました。技能実習生は皆様の知っている通りベトナム人がかなり増えてきて、技能実習の職場から失踪する人もいるし、法律に違反する人もいて、万引する人もいます。恥ずかしいことだけど、人数が増えてくると罪を犯す人も増えてきます。その中に強制帰国や賃金未払いの相談がありました。そこでまた「未払って何？」とか「強制帰国って何？」と。川越法律事務所の弁護士は、とても熱心に調べてくれました。その年だけで6人の相談を受けました。不当解雇された人は労働組合に連れて行ってあげればよいということも、その時に知りました。労働組合では、皆、優しくかったです。全員日本人でした。ほっとしました。世の中にこんな方たちがいるんだなど。世の中にこんなふうは無条件で支えてくれる人がいるんだなど。それで、自分もやらないといけないと思いました。今まで日本で支援してもらって、難民申請を認めてもらって、今後何か返せないか、恩返しとまでは言えないですが、自分の国の人たちにそれ以上迷惑かけないようにするために少しでも役立てればいいかなと思い、今も続けて頑張っています。

今は、労働組合の通訳として支援活動にかかわっています。まったくのボランティアですが、やりがいがあります。ベトナム人技能実習生、留学生、失踪した人たちの支援をしています。賃金未払いや労災隠しなど様々なことを支援しています。

(たかやま ゆき)